

大阪・関西万博「ウーマンズパビリオン」にて、 女子大学の価値を発信

石井亮子

京都女子大学現代社会学部 4 回生

2025/8/31 (日) に、大阪・関西万博ウーマンズパビリオンにて、朝日新聞社主催『WA スペース らしさをつよさに未来をひらく 京女ジェンダーワークショップ』に私たちジェンダー教育研究所学生リーダーが登壇し、私たちが調査した女子大学の価値調査の結果の発表を行うことを通じて、新たに見出された女子大学の価値を発信しました。

1, 目的

私たちが考える社会や目指す姿を具現化するために、女子大学での学びが社会にどうアプローチし、どう挑戦していけるかを考え、女子大学が果たす役割とその価値を社会に提示することを目指した。

2, メンバー構成

学生リーダーの有志 8 名が参加した。

3, 概要

私たちは「女子大学だからこそジェンダーギャップという社会課題を解決可能なのは」という仮説の構築し、その検証を行い、結果を関西万博ウーマンズパビリオンで発表した。仮説検証のために、京都女子大学の卒業生で実際に社会の最前線で活躍する OG らにヒアリングを行うとともに、全国の女子大学のオフィシャルサイトを確認し、そこに掲載されている理念や目標のテキスト情報を分析した。その上で見出されたのは「女子大学だからこそ性差なく学ぶことができ、ジェンダーギャップという社会課題を解決する女性リーダーを育成することができる」という結果であった。この結果を踏まえて、私たちは、私たちがありたい姿・実現してほしい社会を目指すために、ヒアリングで挙げたポイントも含め、女子大学はどう挑戦・アプローチしていけるかについて、具体的に全国の女子大学をいくつかのタイプに分類し、目指すべき方向も提示した。会場は、一般応募での参加者も含めて満席となり、活発な議論が行われた。当日は学生リーダー以外にデータサイエンス学部の学生 14 名、京都女子高等学校の学生 24 名からの発表も行われた。

4, 成果

約半年間の準備期間のなかで議論を重ねた。女子大学に在籍する私たち自身がまず、その存在意義や必要性を深く認識することができた。次に、今回行った全国の女子大学への調査を通じて、女子大学の役割が時代と共に大きく変化し、現代の女子大学では、社会で活躍するための専門的なスキルや資質の育成が強く求められているという、重要な知見を得ることができた。この調査は、今まで私たちの胸中にあった思いを具体的に言語化し、体系化する貴重な機会となった。過日、本学から「女子大学宣言」が発表されたが、女子大学が減少傾向にあるなか、学生視点で「女子大学が果たす役割」を考え、学外へ向けて発信できたことは、本発表の大きな成果であると確信した。しかし、“女子大学が果たす役割”について社会にはいわゆる「温度差」があることも感じ、これからも継続して取り組んでいくことの重要性を感じた。

また、当日参加ができなかった人のためにも、2025/11/1（土）～2025/11/3（月）に行われる本学の学祭「藤花祭」でもほぼ同じ趣旨の資料を掲示した。

尚、この報告は、2025/09/01（月）の朝日新聞京都版、2025/10/14（火）の朝日新聞広告特集に大きく掲載された。本学での掲載ページは以下の通り。

<https://www.kyoto-wu.ac.jp/laboratory/gender/news/n0oio70000003d5h.html>

（2026/1/30 最終閲覧）

